

食べている限り、
誰の隣にも「農」はある
なのにどうして
これほど「農」の世界は
私たちから遠いのか

声の百姓の

ドキュメンタリー映画



地域の“食と農”まちづくりフォーラム

～映画「百姓の百の声」を観る～

上映会

令和5年10月28日(土) 13:00 開場

入曽地域交流センター 大ホール

〈お願い〉 駐車場は台数に限りがありますので、乗り合わせや公共交通機関のご利用をお願いします。(入曽駅東口下車徒歩6分)

上映 13:20～(130分) 上映後に交流会 終了16:30予定

料金 1,000円(当日券1,200円) 学生 500円

Googleフォームでの
購入はこちらから
(当日チケット渡し精算)



チケット取次

入曽地域交流センター (月～土曜日 8:30～17:15) 9/11(月) 取次開始

Via Mare 南イタリア料理店 (火～土曜日 11:30～14:30 18:30～21:00)

狭山カレー工房りとりほっと (11:30～14:00 休業日 火曜 第1・3水曜日)

亀屋本店 セタ通り商店街 (9:30～18:00 休業日 木曜日)

文具のつちかね (9:00～18:00 休業日 日曜日)

コモンズカフェ いるまの (火曜日 11:00～14:00)

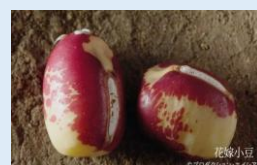
コモンズカフェ みのりのパンランチ (金曜日 11:00～14:00)

共催 地域の“食と農”まちづくりフォーラム実行委員会

生活クラブ生協狭山支部

NPO法人さやま環境市民ネットワーク

後援 狭山市 狭山市教育委員会



◆お問合せ 廣中 (090-6194-5565) info.forum0625@gmail.com

「百姓」とは、何でも自分でできる人という意味で農家にとっては誇りに思う言葉です。

狭山市水野の大豆畑

和食を撮って世界を魅了した『千年の一滴だししょうゆ』の柴田昌平監督が、食の原点である農と向き合った。全国の百姓たちの知恵・工夫・人生を美しい映像と丁寧なインタビューで紡ぎ出す。田んぼで農家の人たちが何と格闘しているのかビニールハウスの中で何を考えているのか。多くの人が漠然と「風景」としか見ていない営みのそのコアな姿が、鮮やかに浮かび上がる。



今後、経済が下向き
食糧輸入に頼れなくなると予想される日本で
いま必要とされる力は、レジリエンス：復元力。
百姓たちには本来これが備わっている。
映画に登場する百姓たちは
小手先では解決しないさまざまな矛盾を
独自の工夫で克服していく。

復元力
立ち上がる
転んでは
そして前を向く
みんなつまづく



柴田監督の開かれた知と情熱は、個々のお百姓さんに蓄えられてきた膨大な叡智にアクセスすることを試みた。
「批判」「対立構造」「問題解決」などという
安易な提示に慣れきっている私たちに
この世界は、もっともっと複雑で奥深く
それを理解し創意工夫するお百姓さんの喜びや面白さを伝える。
日本の農業の厳しい現状を想像しつつも
ひとりひとりの姿を見ていたら力が湧いてきた。瀬瀬あや（映画監督）

制作・配給 プロダクション・エイシア
Tel 042-497-6975

Mail info@asia-documentary.com



監督：柴田昌平 プロデューサー：大兼久由美

出演：日本全国の農家

語り：3人の農家の女性と監督

監修：百合田敬依子 撮影：柴田昌平 大兼久由美
音楽：Dan Parry・甘茶 編集：高橋慶太 音声：柳田敬太

題字：財前謙 メインビジュアル：阿部結

カラーグレーディング：堀井威久磨 制作デスク：宮川尚子

制作協力：農文協（一般社団法人 農山漁村文化協会）

制作・著作：プロダクション・エイシア

実行委員会からのメッセージ

この映画では、農に生きる人々が困難に直面しながらも、知恵を出しこたわりを持って作物を育てる等身大の姿が描かれています。彼らの生業は、地域の繋がりを強化し、そこで暮らす地域住民、さらには流通を通じて多くの消費者の食を守ることに繋がっています。“近いようで遠い”農業と我々の食を繋げ、より豊かな地域コミュニティの形成に向けた突破口となる作品だと感じました。この映画を広く、食、農、地域コミュニティに関心を寄せて下さる方々に狭山でご覧いただけるよう、上映会を開催することになりました。1960年代、日本の食料自給率は73%でしたが、2021年現在では約半分の38%になってしまいました。長い間私たちの食を守ってきた生産者の姿が、いつの間にか一般の消費者にとって遠い存在になってしまったようです。農村が直面する課題を知ること、食と農に関わる全ての人に向けて、共に解決策を考えるきっかけになると思います。